



大阪の 社会福祉

The social welfare in OSAKA

2026

9

No.847

大阪の社会福祉
No.847



▲天王寺駅東口改札南側(8月18日)

2面

市社協 令和8年熊本地震～大阪からの支援～

暑い日が続いて、熊本の被災地で後片付けに当たる人の大変さを痛切に思う▼私たちもその暑さに閉口する毎日。あべのハルカスから地下鉄谷町線天王寺駅までは、普通に歩いて5分もかからないほどの短い距離だが、その目、たぶん熱中症だろう、妻が歩けないと言いつつ出た。休み休み歩いて、ホームの椅子に座りこんだ時には20分ほどもかかってしまった▼百貨店で買い物をした後、大混雑の地下街でのこと。車いすに乗ってくればよかったと後悔するが、その日に限って「歩く」と言ったので、車いすは持つてこなかった▼そして座っていると、声をかけてくれる人がいる。「大丈夫ですか」「お水買ってくださいよ」など、見知らぬ人が声をかけてくれるのだ。「看護師さんですか」と思わず質問してしまった▼その人は看護師ではないと言ったが、人の困難に出会ったとき、知らん顔のできない人がある。大阪には親切な人がたくさんいる▼ホームにつくまで、こうして休み休み移動したのだが、その間、5人も人が声をかけてくれた。世の中捨てたものではない。最後のひとり、駅長さん。私たちの知らない間に駅長室に声をかけてくれた人もいたのだ▼法律や制度だけが福祉を支えているのではない。善意を掘り起こす方策を真剣に考えなければ。(石)



大阪府共同募金会からの お知らせ♪

令和8年度NHK歳末たすけあい特別助成申請受付

年末・年始の時期に特有な福祉ニーズや生活困難者等のニーズに応える事業に対する助成申請を受け付けています。

申請書受付期間 令和8年9月30日(水)まで(必着)

令和8年度赤い羽根共同募金記念バッジデザインは 応募作品数168点の中から大阪府内の高校生の作品に決定

10月1日から全国で実施する第80回赤い羽根共同募金運動で使用される記念バッジのデザインが決定しました。近畿6府県(滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)共同募金会が合同で募集。168点の応募作品の中から、選考委員会の審査の結果、赤い羽根賞(最優秀賞:採用作品)1点、愛ちゃん賞(優秀賞)5点、希望くん賞(奨励賞)20点を決定いたしました。

採用されたデザインによって製作した記念バッジは、今年度の共同募金運動期間中に、共同募金に協力いただいた方へのお礼や、共同募金をPRするためなどに、近畿6府県を中心に広く活用されます。

◆赤い羽根賞(最優秀賞:採用作品)

おく ひら りん
奥平 凜さん(大阪府・高校生)

制作意図

円や輪を描き、人と人とのつながりを表現しました。

バッジの直径は
19mm程度▶



◆愛ちゃん賞(優秀賞)・希望くん賞(奨励賞)

受賞者・受賞作品については、大阪府共同募金会のホームページに掲載しています。

●ホームページ【赤い羽根おおさか】 <https://akaihane-osaka.or.jp>

共通

詳しくは、大阪府共同募金会ホームページ <https://akaihane-osaka.or.jp>をご覧ください。

【問合せ】大阪府共同募金会 TEL:06-6762-8717 FAX:06-6762-8718

Eメール:ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp

赤い羽根おおさか



令和8年熊本地震 大阪からの支援

7月28日に発生しました令和8年熊本地震により、犠牲となられた方へお悔み申しあげますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申しあげます。地震による自宅の損壊や、家具の転倒など、被災地にて危険と隣り合わせで不安な生活を送っておられる方々に向けて、復旧・復興支援として大阪市社協で何ができるのか、市社協・区社協が一丸となって考え、取り組んでいます。



日程	時間	場所
8月12日(水)	午後5時45分～6時45分	上本町6丁目交差点(近鉄上本町駅周辺)
8月13日(木)・8月14日(金)	午後6時～7時	大阪市北区芝田2丁目交差点(ヨドバシカメラマルチメディア梅田前)
8月18日(火)・8月19日(水)	午後6時～7時	JR天王寺駅東口改札南側
8月26日(水)・8月28日(金)	午後6時30分～7時30分	なんば広場(大阪高島屋前)

▲街頭募金の実施日時・場所

いま、私たちにできること 「街頭募金」

街頭募金は大阪市内、全4か所、計7日間、実施しました。市社協・区社協有志職員延べ120人が参加し、熊本県のマスコットキャラクターであるくまモンのぼりの作成やボランティアの方がくまモンバルーンを作成するなど工夫しながら、被災地支援のために募金を呼びかけ、計436,357円が集まりました。

夏の暑さが続くなか、雨が降る日もありましたが、通勤中の方や買い物帰りの方、小さなお子さん連れの家族など、たくさんの方々に協力いただき、みなさんの被災地への思いを実感しました。



▲上本町6丁目交差点(8月12日)



▲天王寺駅東口改札南側(8月19日)

お預かりした募金については、1日でも早く被害を受けた方々が安心できる暮らしを取り戻せるよう、熊本県社協や共同募金会へ送金し、災害ボランティアセンターの運営や被災地への支援物資の整備等に活用されます。地震発生から1か月以上が経過した今、募金は被災地の復興に大きな力になります。みなさまの温かいご支援・ご協力ありがとうございます。

大阪の元気を熊本に届けよう

市社協・区社協は7月31日から熊本県内の市町村社協が実施する災害ボランティア活動を支援するため、支援金の口座開設とともに市社協・区社協に募

金箱を設置しています。集まった支援金は熊本県社協へ送金し、災害ボランティアの派遣や活動に必要な経費、被災地への支援物資・資機材の整備、災害ボランティアセンターの運営支援などに活用されます。募集期間は令和8年9月24日までとなります。みなさまの温かいご支援、ご協力をお願いします。

令和8年熊本地震災害支援金募集

受付期間:令和8年9月24日(木)
銀行口座:りそな銀行 上六支店
普通預金 6804741
名義:大阪市社協 義援金口
(オサカシヤキョウギエンギングチ)

※詳細は大阪市社協総務部(06-6765-5601)まで

また、大阪府社会事業施設協議会(事務局:市社協)は被災された方々の生活再建を支援するため、災害義援金を加盟施設あて周知し、募集しています。今回の地震の影響で多くの社会福祉施設が被害にあっていますが、施設を支える職員も被災しています。少しでもはや

く元の生活に戻るよう、大阪市内の施設従事者の思いを熊本県共同募金会を通じて、被災された方々に届けます。

先遣隊(による)現地視察 今後の被災地支援のために

大阪市社協では、まだまだ現地の被災情報が錯綜するなか被災地や地元社協への必要な支援を把握するため災害時のボランティア活動支援協定を締結している「ライオンズクラブ国際協会335-B地区」と合同で先遣隊による現地視察を8月10日～12日に実施しました。

大阪市社協からは、総務部安森忠宜部長、秋田大輔経営改革担当課長とボランティア・市民活動センター木下掌悟副所長



▲持参した保存水等を訪問した社協に提供

が参加し、ライオンズクラブ335-B地区からは坂本恵市アラートコーディネーターと平田佳之アラートチームリーダーの合計5人で熊本市・宇城市・氷川町・宇土市・御船町の各災害ボランティアセンター(以下、災害VC)とライオンズクラブの活動拠点等を訪問し、災害VC運営上必要とされている支援内容の確認や課題について聞き取りをおこないました。視察当日は、まだ全国の社協による応援派遣が開始されていない時期で「運営スタッフの人数が足りず依頼者宅への現地調査が追い付いていない」「想定よりボランティア希望者が多く活動場所の確保が困難」などの声が多くあがっていました。

酷暑が続くなか、多くの災害VCは屋外に開設されており、スタッフの方やボランティアの熱中症対策をしっかりと講じないと思われ、2次災害を発生させてしまうため、休憩の大切さや熱中症対策の装備品を今後の災害VC運営においては確保しておく必要性があると改めて感じました。

また、今回は、おそらく全国初と思われるライオンズクラブとの同行視察の機会となり、双



▲氷川町社協職員と震災の影響を共有

方の災害支援の取り組み状況や被災地の社協やライオンズクラブの対応状況も実際に目で見えて意見を交わす貴重な機会となりました。締結している災害時のボランティア活動支援協定をより効果的なものとするため、今後の連携のあり方や手法についても意見交換をおこないながら帰阪の途につきました。

熊本地震特例貸付開始に伴う応援派遣

令和8年熊本地震により被災した世帯に対する生活福祉資金緊急小口資金の災害時特例貸付が8月19日から災害救助法が適用された21市町村で受付が開始され、全社協からの



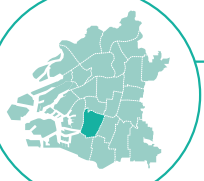
▲ボランティア活動で使用する資機材を管理(氷川町災害VC)

要請に基づき、近畿ブロックから20人の職員が派遣されました。大阪市社協からは福祉部地域福祉推進担当の門脇健太主事が熊本市社協で従事しました。

受付開始の19日から21日までの3日間を通し、門脇主事は「熊本はこれまでに2度も特例貸付を実施しており、10年前の熊本地震の経験を活かし、平時からの備えや地域住民との関わりを丁寧におこなっていると感じました。同じクルールの職員とふりかえりをした際に、申請者の多くが以前から社協と関

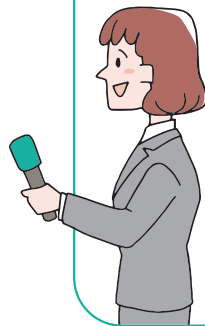
これからも大阪市社協として できることを考え、 取り組みます

熊本地震だけでなく関東や北陸地方での豪雨災害により、各地で一刻も早く「ふだんのくらしのしあわせ」を取り戻すべく、支援活動がおこなわれています。熊本地震では先遣隊や職員の応援派遣で現地の状況を把握し、大阪市社協としてどういった支援ができるか検討をしています。能登半島地震ではボランティアを募り、ボランティアバスを運行し、多くのボランティアと現地で活動をしました。現地状況を把握し、声を受け止め、大阪市社協としてできる支援や活動に引き続き取り組めます。



西成区

オーダーメイドの支援で強みを活かし、可能性を伸ばすサポート ヒューマンインクルーシブセンター クリエバ



日本学生支援機構の令和7年度「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」によると発達障がいのある学生数(大学生、短大生、高専生)は12,706人であり、年々増加傾向にあります。発達障害者支援法が施行された平成17年と比べると、法制度は整備され、学校や職場等での合理的配慮も進んでいます。発達障がいに対する理解や制度、サービスなどの整備は充実しているとは言えません。

今回は平成28年に西成区で開設した社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会が運営する、こどもから大人まで幅広い世代の発達障がいや精神疾患のある方をサポートする施設であるヒューマンインクルーシブセンター クリエバ(以下、クリエバ)に事業内容や、利用者に関わるなかで大切にされていること、課題に感じていることについてお聞きしました。



▲クリエバの外観

まずは、クリエバを開設したきっかけを教えてください。

開設した10年前はいまほど発達障がいに対する社会的理解は進んでおらず、特性が誤解されることで、本人の努力不足や親のしつけの問題として言われることもありました。そのなかで生きづらさを抱える本人や家族が安心して相談やサポートを受ける場が必要だという思いから始まりました。こどもから大人まで幅広い支援を展開し、一人

発達障がいのあるこどもたちへの支援はどのようなことをおこなっていますか。

こどものライフステージに応じて支援し、大阪市から大阪府障がい児等療育支援事業を受託し、療育相談や保育園や学校



▲プログラムルーム

等に訪問し日頃の療育のサポートなどを行っています。また、ライフステージに合わせて、4つの施設でさまざまなプログラムに取り組んでいて、こどもの療育・発達支援では、こどもリハビリ、療育相談、少人数療育の3つを軸にこどもの好きを伸ばし、自信をつけ、やりたいことを引き出せるよう取り組んでいます。こどもリハビリでは特に低年齢児に特化してプログラムを実施しており、運動機能の発達が言葉や社会性など発達全般の土台になると考えています。例えば、1歳を過ぎると少しずつ歩けるようになり言葉を発するようになりませんが、言葉を発するには運動機能が土台になっていきます。言葉が出てくるとこどもは自分の要求を表現する際に大人の手を使って対象物に誘導する行動をとることがありますが、言葉で表現してもらいたいので遊びや音楽療法を通じて自然と言葉が出てくるように働きかけています。また、小学校を模した環境で行う就学準備プログラムでは、授業一コマ45分を想定した中で集中して座ってプログラムを受け、経験を通して「これやったことある！」と自信を持って小学校での授業に臨めるように支援しています。

支援するなかで注力していることはありますか。

令和4年度から区内の保育園や幼稚園との連携強化に力を入れています。いまでは西成区内にある半分の施設と連携がとれています。大阪府障がい児等療育支援事業のなかで園や学校に訪問し、どのようなこどもがクリエバに通っており、どのように関わっているのかを伝えていきます。また、不登校支援の一環として、自宅へのアウトリーチ(訪問型)によるサポートもおこなっています。時間をかけて、こどもや保護者との信頼関係づくりから始まり、学校や医療との連携もおこなっています。



▲自分のペースでプラモデル作り

大人の発達障がい支援について教えてください。

まずは専門的な心理検査やカウンセリングをおこない、困りごとや目標を把握し、オーダーメイドでサポートを提案します。利用者の多くが「コミュニケーションが苦手」「職場でうまくいかない」など対人関係の悩みを抱えていることが多いため、コミュニケーションスキルをロールプレイング形式で学ぶST(ソーシャルスキルトレーニング)をおこなったり、運動を通じて、気分の安定を図るなど多角的なアプローチで支援しています。

目標は人それぞれですが、就労や仕事を続けて、納税するといったことを自分たちができていないことに対して、後ろめたさやプレッシャーを感じやすいです。そのため、「働きたいですか?」とは聞かず、「どのようにスキルアップをしたいですか?」「どのような生活を望みますか?」と聞くようにしています。利用者の思いや意向に寄り添い、サポートしています。

相談支援やリハビリ以外にはどのようなことをしていますか。

オフィスアシスタント業務や

クリエバが運営する「わいわいカフェ」と「もつきんショップ」のカフェ運営業務など、利用者の強みを活かせる働く場を提供しています。カフェでは接客からドリンクづくり、野菜の栽培など幅広い内容があるため、接客が苦手な方でも取り組みやすく、お客様との会話を楽しめる様子を見ることができます。もつきんショップは近隣の「ゆくとあい」に隣接する施設内で営業していますが、パンの販売を楽しむににされている方もいて、地域住民から直接「ありがとう」と感謝の言葉をいただける貴重な機会になっています。野菜の栽培はクリエバの屋上でおこなっており、一人でも作業することができ、月に1度なら来れるという方でも始めやすいです。



▲利用者の強みを活かせるカフェを運営

さまざまな課題もあるかと思いますが、今後の展望はありますか。

発達障がいのことで困ったとき、悩んだときの相談先がまだまだ足りていないと思います。相談できる場所があっても、支援者が発達障がいについて理解が不十分であると「あなたは大丈夫」と帰されることもありまうとほかに相談しなくなります。そこから安心して社会に馴染めれば問題はないですが、せっかく相談したのに対応してもらえない悲しさから、さらに孤立し

ヒューマンインクルーシブセンター クリエバ

所在地: 〒557-0025 大阪市西成区長橋3-1-17
受付時間: 平日午前9時～午後6時 (祝日・年末年始を除く)
電話番号: 06-6567-7115
HP: <https://humannet.or.jp>

具体的なクリエバのサービスや取組みは公式LINEから確認できます。



てしまっています。そのため、社会全体で発達障がいに対する理解を深めることが重要だと考えています。クリエバに来られる大人の方はこどもの頃に支援を受けたことがない方が多いので、「小さいときにこういう相談先を知っていたら自分はずっと変わっていたのかな」とよく聞きます。昔はよく学校の先生に怒られていたこどもという認識であつたかもしれませんが、それが生まれつきの特性や精神疾患かもしれないという認識を多くの人に持つてもらえるようになってほしいです。

最後に、まだつながっていない方はとにかく一度電話をかけてほしいです。小さなことでも困っていることがあれば相談してください。「必要な時に頼れる場所」と言ってもらえるように努めていきたいです。



終活相談事業

「将来あんしんエール」開始記念講演会 「人生の最終章に向けた備えを一緒に考えてみませんか」

終活相談事業の開始を 記念して講演会を開催

「終活」とは、もしものときに、ご自身の望みがかなえられるよう、元気なうちに備える活動です。市社協は、誰もが人生の最終章を迎えるまで、地域で安心して自分らしく暮らして



▲終活に関心のある150人に参加いただきました

正己会長から、終活相談事業の開始の経緯について、「市社協において1年以上にわたって今後の社協のあり方を検討してきたなかで、一人暮らしの高齢者が増加している状況に向き合い、誰もが最期まで地域で安心して暮らしていけるよう、新規事業として本事業を立ち上げた。本日の講演会が参加者にとって、終活について一歩踏み出すきっかけとなることを願う」とエールを送りました。

終活はこれからの人生の 未来をつくること

続いて、終活の支援に専門的に取り組んでいる司法書士の福村雄一氏から、「人生100年時代と切っても切れない終活の話」と題し、講演をいただきました。

はじめに、「終活はこれからの人生の未来をつくることであり、終活を進める効果は、家族や自分が大切に思っている人との関係を改めてつなぎ直すことだと理解いただくのを本日のゴールにしたい」と述べ、終活の進め方に関しては、「終活についてひとりで考えたことはあっても、家族と一緒に考えたことがある人は少ないと思う。自身で学んだ次は、ご家族や大切に思っている方と話をしたり、専門の方に相談して進めることが大事」と伝えました。

また、「日本で終活がなかなか進まない事情として、死やお金について語ることにタブーの意識があり、『うちは大したお金はない』『子どもに迷惑をか

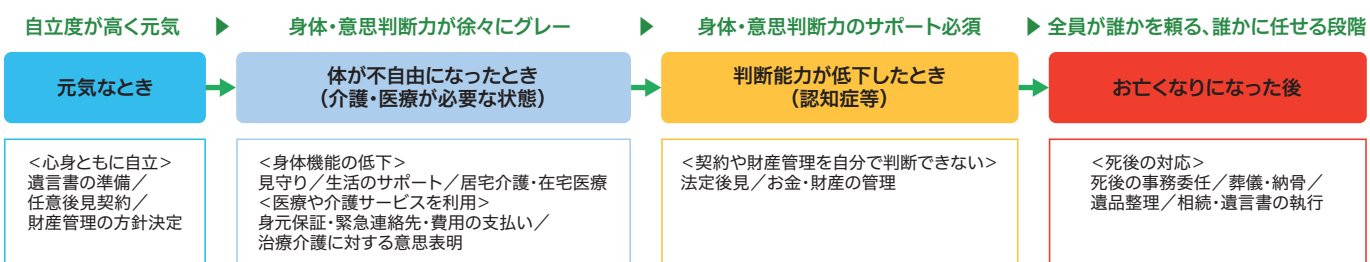
けたくない』『うちは揉めないから大丈夫』『まだ元気だから』と思い、先送りにする方が多いことがあげられる」「準備をしないと、残された家族はどこに何があるかがわからず、かえって迷惑になる」「まだ元気の次は、もう元気じゃないので、そうなる対策が打てなくなる」など、元気な間に進めることが大事であり、期限を決めて進めてほしいと話しました。

終活の全体像をつかむ

次に、人生の時系列に沿って、「誰しも、自立度が高く元気な今の状態から、今後は体が不自由になり、判断能力が低下して、サポートが必要という状態になり、最期は亡くなるという道を通る。体が不自由になったとき、判断能力が低下したとき、亡くなったときという3つのステージでどう備えるかが終活ということになる」と説明しました。

たとえば、体が不自由になったときは、終の住まいをどうするか、入院や施設に入所するときの身元保証人のこと、手続き支援やお金の管理などさまざまな対応が必要になる。また、認知症等で判断能力が低下したときには、成年後見制度の利

一生涯の時系列に沿う人生100年時代と切っても切れない終活の仕組み



▲終活をすすめるなかで備えが必要なステージ



▲「終活は家族や大切に思っている方と相談して進めることが大事」と語る福村氏

限らず、住まい、病気、葬儀・お墓、税金のことがあり、5つの視点で暮らし全体を見渡すことで、備えの漏れに気づくことができる。自身で優先度が高いこと、気になることを一番先に考えればよい。死後のことが不安な方は、まずそれを解決し、その後に手前にある不安を解決していけばよい」と述べ

用を検討しなければならない。死後には、葬儀・納骨、行政への手続き、家の処分などが出てくるが、それらは必ず誰かに任せないといけない。家族に頼むことができなければ、契約という形で第三者に頼むことも視野に入れておく必要があると説明しました。

終活への備えの進め方 「相談が大事」

終活への備えに関して、「人生100年時代が到来するなか、元気なまま寝込まずに亡くなるということとは少ない。誰か、何かを頼りにする時代がやってきている。人生100年時代の暮らしを支えるテーマとしては、財産やお金のことに

募り、参加者から「終活にどのように手を付けていけばよいか」「死後事務委任の大まかな費用を知りたい」「信頼のける事業所をどのようにして選べばよいのか」「遺言書にはどういったことを記したらよいか」など、終活を具体的に進めるための質問が多く寄せられました。質問に対し、福村氏は「自身で決めるのが難しければ、一人で悩まず家族に相談してみるか、第三者の方に相談してみるのが、スタートになる」と助言しました。

本講演会のアンケートでは、「先生の講義がわかりやすく、理解しやすかった。終活について考えるきっかけになった」「終活についていろいろと考えているが、形にしていきたい気持ちが強くなった。家族の協力をどのように得るか考えているが、気持ちを一歩前に進めてくれる機会になった」との感想を多くいただきました。

市社協としては、引き続き、終活について一人ひとりの事情や不安に思っていることをお聞きし、もしものときの備えを進め、将来に向けて安心して暮らしていただけるよう、終活相談事業「将来あんしんエール」に取り組んでいきます。

終活相談事業 「将来あんしんエール」のご案内

対象者 大阪市内居住者で、「終活」に関心がある人

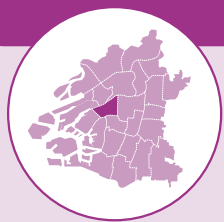
相談方法 大阪市立社会福祉センター(天王寺区東高津町12-10)への来所・面談
事前に電話・FAXによる予約が必要です。費用は無料です。

相談日時 平日午前10時～正午、午後1時～4時(原則1時間)

**予約受付
問合せ先** 受付時間 平日午前9時～午後5時
大阪市社会福祉協議会 福祉部
TEL:06(4303)4180 FAX:06(6765)5607



▲相談者にはエンディングノートをお渡ししています



企業と協力した新たな憩いの場 「スターバックスに行ってみよう！」 ―企業×地域―

年々、地域の町並みが移り変わるなか、地域の憩いの場であった昔ながらの喫茶店も惜しまれつつ閉店していくお店もあり、新たな憩いの場や集える場を求める声が多くあります。都市部に多く出店しているカフェのなかに「スターバックス」があります。しかしながら、高齢者のなかにはあまり馴染みのない方も多く、若者が多く通うカフェにはなかなか踏み出せない方もいます。

そこで、西区社協は「スターバックスに行ってみよう！」と題し、地域活動者や地域の高齢者と一緒にスターバックス以下、スタバへ行き、新たな憩いの場として親しみを持つてもらえるような企画を5月と7月に実施しました。スタバには、たくさんのメニューやサイズがあり、注文するまでのハードルが高いという高齢者の声を受けて、注文方法やメニュー、店舗の利用方法などを店員から教えてもらい、注文時の心配なことを確認できる時間を設けました。その後、ご自身で好きな商品を選び、スムーズに利用することができていました。



▲ドキドキしながらスタバに入店

地域の声を企業とともに形づくる

この取組みは区社協の坂口千穂第1層生活支援コーディネーターと江村千佳子第2層生活支援コーディネーターが、スタバのある高台地域で区社協オリジナルすごろく「人生いろいろすごろくゲーム」を昨年度実施した際に、高齢の参加者から「昔からの喫茶店が閉店し、気軽に集まれる場所がない」「こ

の地域に新しくスタバができて気になるが、注文方法がわからない」という話を聞いたことがきっかけです。その声を受け、西区地域包括支援センターと西区オレンジチームと協議し、「地域の高齢者のインフォーマルサービスの利用が少なく、外出機会がない」「住みやすい地域を目指すには認知症の方への見守りの目を増やさなくてはいけない」という課題や思いを共有しました。三部署で連携し、新たな通いの場の創出や外出の機会づくりをめざし、スターバックスコーヒー南堀江店に住民からの声や開催目的を伝えたとうえで、相談し、実施に至りました。この活

動は地域活動者を中心となって周知チラシの作成や住民への声かけをおこない、地域と社協、企業の三者の思いを実現する活動となりました。



▲店員からメニューとサイズの説明を受けました

企業と協力して 今までにない体験を

参加者のなかには「毎日、スタバの前を通るけれど、注文方法がわからず入りにくかった」「家族に注文を任せていたので、メニューを見たこともなかった。初めてメニューを見て、どんなものがあるのか知れてよかった」「店の前の交差点で朝の児童登校の見守り活動をしている。これからは活動後に誘い合って、スタバに寄ってみたい」とみ

なさんがスタバを気軽に利用できる自信につながった様子が伺えました。

取組みを企画した坂口第1層生活支援コーディネーターは「高台地域は都市部で大きな幹線道路も多く、地域会館以外に通いの場が少ないことを課題に感じていました。一方で、企業やお店はたくさんあるので、多様な形で連携を図りながら通いの場づくりに努めたんです。今回は参加者同士が誘い合って、参加してもらいましたが、今後も住民同士の声かけを大切に、新しいことに挑戦してもらえような環境づくりをしていきたいです」と話しました。



▲ゆったりとしたモーニングの時間

善意銀行 令和7年度 実績

【金銭】

一般預託

預託者名	金 額
介護予防ポイント 活動者有志	1,900

一般払出

払出先	金 額	
大阪市児童福祉施設連盟	100,000	社会事業施設 団体支援助成金
大阪市私立保育連盟	100,000	
大阪市老人福祉施設連盟	100,000	
大阪市生活保護施設連盟	100,000	
大阪市地域福祉施設協議会	100,000	
大阪市障害児・者施設連絡協議会	100,000	地域の困りごと 支え合い活動 応援助成金
みんな食堂ひだまり	200,000	
勝三第一住宅ふれあい活動	200,000	
そらとぶさかな	200,000	
谷町すこやかクラブ	200,000	
のびのびくらぶ	200,000	
青春リターンズ	159,894	

指定寄附

預託者名	払出先	金 額
スマイルチルドレン	大阪市児童福祉施設連盟	200,000
	大阪市ボランティア・市民活動センター (地域こども支援ネットワーク事業)	97,280

助成名	払出先	金 額
成年後見制度推進助成	大阪市成年後見支援センター	200,000

【物品】

預託者	寄附内容	払出先
株式会社I-ne	・SALONIA ドライヤー 200個／ヘアアイロン 19台 スチーマー 2台／シャワーヘッド 15本	大阪市児童福祉施設連盟
公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会	手指消毒剤 330本 (500mlスプレーボトル)	12区社会福祉協議会(都島区、西区、天王寺区、東成区、生野区、鶴見区、阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区)
装栄株式会社	使い捨てPVC手袋57万5000枚 (1ケース100枚入り:1450ケース ／1箱10ケース入り:575箱)	・大阪市地域福祉施設協議会 ・16区社会福祉協議会(都島区、此花区、中央区、港区、大正区、浪速区、西淀川区、東淀川区、東成区、生野区、旭区、鶴見区、阿倍野区、住之江区、住吉区、西成区)
株式会社I-ne(2回目)	SALONIAドライヤー 170個	・大阪市児童福祉施設連盟 ・大阪市ボランティア・市民活動センター (地域こども支援ネットワーク事業)
株式会社バランス&チューニング	書籍「衰え知らずの脳トレ習慣」30冊	大阪市老人福祉施設連盟
真宗大谷派 難波別院	南御堂 花まつりクラシックコンサート招待 22人	淀川区社協、中央区社協 ※払出は令和8年度
大阪海苔協同組合	車椅子10台	・大阪市障害児・者施設連絡協議会 ・大阪市社会福祉研修・情報センター ※払出は令和8年度

善意銀行 令和8年度(7月時点実績)

指定寄附【金銭】

預託者名	払出先	金 額
スマイルチルドレン	聖家族の家	405,000
	大阪市児童福祉施設連盟	156,783
	大阪市ボランティア・市民活動センター (地域こども支援ネットワーク事業)	50,000

【物品】

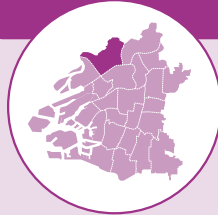
預託者	寄附内容	払出先
公益社団法人 全日本不動産協会 大阪府本部 中央支部	吉本新喜劇 観劇チケット (91名分)	大阪市児童福祉 施設連盟

市社協では、皆様からの善意のご寄附を、施設や団体へ払い出しをおこなったり、助成金として活用させていただくことで、地域福祉の推進などに役立てています。



善意銀行
―皆さまの善意を大切に―





つながる・学ぶ・広がる地域の居場所づくり 淀川区子ども居場所ネットワーク ラウンドテーブル

こどもの貧困が社会問題となるなかで、コロナ禍以降、各地域でも食堂や学習支援などの多様なこどもの居場所が立ち上がってきました。大阪市内では500を超えるこどもの居場所があり、その多くは地域住民によつて活動しています。市社協ではこどもの居場所活動団体や活動を支援したい企業などが集まり、こどもの居場所活動に関する勉強会や情報交換会などに取り組み「地域こども支援ネットワーク事業」を実施しています。また、各区社協でもこどもの居場所に関するネットワーク化を進めています。そのなかで、平成29年にネットワーキング化し、区内にある企業とこどもの居場所のつながりづくりに向けた取組みを企画した淀川区社協の取組みを紹介します。

地域の未来を育む あたたかな場所を目指して

淀川区社協は7月31日に淀川区こども居場所ネットワークが主催で「つながる・学ぶ・広がる地域の居場所づくり こども食堂＋こどもの居場所ラウンドテーブル」を開催しました。ラウンドテーブルはこどもの居場所活動者、企業及び関係団体が一堂に会し、活動者の抱える課題やニーズを、企業・関係団体と共有し、それぞれの強みを活かした支援につなげるとともに、立場を越えて顔の見える関係を築き、継続的に地域のこどもを支



▲パネルディスカッションのようす

えるネットワークづくりを進めることを目的に実施しました。企画から運営はネットワークに参画しているメンバーと考え、当日はこどもたちの笑顔のために

活動したい多くの仲間が集まりました。

このラウンドテーブルは2部制でおこなわれ、第1部ではすでに活動している団体とこどもの居場所を支援している団体の計4団体が登壇し、パネルディスカッションをおこないました。

まず、活動団体からの報告があり、初めに報告した笑顔まんてんこども食堂の趙真理さんは、シングルマザーとしてこどもを育てるなかで近隣住民に助けられた経験から、いつか地域に恩返しをしたいと思っていました。コロナ禍により本業の韓国



▲何に困り、何を求めているのか、意見を出しあう

困りごとに対し、どのような仕組みを構築しアプローチしていくかを考えながら今後も取り組みたい」と伝えました。

ラウンドテーブルを終えて、淀川区こども居場所ネットワーク代表の深沢周代^{ちかよ}さんは「子ども食堂にマイナスイメージを抱いている方もいるので、誰もが立ち寄りやすい垣根のない居場所づくりをめざしていきたい。いまは困っていないかもしれないが、いずれ困ったときに手を差し伸べたり、私たちのことを思い出してもらえようになりたい。企業のなかで何から始めたらいいかわからないときに相談してもらえよう。活動者と企業の架け橋になりたい。今後は、みんながごちゃまぜに関われるような企画を考えているので、より幅広い方に関わってもらえよう努めたい」と話しました。



▲淀川区こども居場所ネットワーク代表の深沢さん

居酒屋の営業が制限され、学校の給食が提供されない時期と重なり、「今だ！」と決意し、こども食堂を始めました。趙さんは「こどもたちから悩みや困りごとを話してもらえれば待ちの姿勢で、寄り添うことを大切にしている。困ったときにはいつでもおいで！」と伝えている。これからも地道に元氣いっぱい続けていきたいと話しました。

次に報告したNPO法人ファーストキャットの坂口絵梨花さんは、薬局を営業しながら空きスペースを活用したこどもの居場所「ピススペース」を実施しています。こどもたちの未来を育むサポートをしたいと考えて、日頃の悩みや困りごとを聞くまちの保健室のような場となっています。24時間365日営業している店舗のため、こどもから夜中に連絡が来ることもあります。が、しんどい時にいつでも対応できるのが強みだと考えています。坂口さんは「私たちだけではできないことは限られているので、ともにこどもたちの未来を育める仲間が増えると嬉しい」とメッセージを伝えました。

続いて支援団体からの報告がありました。公益財団法人オリックス宮内財団の川端潔^{きよし}さんは平成28年から「子ども食堂応

援プロジェクト」と題し、多くの活動団体を支援してきました。申請のあった団体に対しては必ず現地ヒアリングを実施し、活動状況や活動者の思いを聞いています。そのなかで、これまでは企業として営利を求める環境からこどもたちの未来を思っ活動される方々の話を聞き、尊敬の念を抱くこともあります。川端さんは「助成金の選択肢も増えていますが、みなさんから必要とされる限りは続けていきたい。助成した団体の活動が途絶えてしまおうと悲しいため、できる限り長く続けてもらえるよう支援をおこなっていきたい」と話しました。

最後に報告したがんこ十三総本店支配人田中克朋^{かつとも}さんは区内のこどもの居場所にお寿司のお弁当を提供しています。特にキッチンがなく食事を作れない団体や普段は調理が忙しく十分にこどもと関わることでできない団体などにとっても重宝されています。がんこは十三を発祥とする企業であり、地域への感謝の思いから、コロナ禍での厳しい状況を区社協から聞き、これまでで25,000食を提供してきました。田中さんは「準備は大変ですが、『おいしかったよ』の一声や笑顔はなにものにも代えがた



▲参加者のみなさんで記念の1枚

政職員、基幹施設など多様な団体が参画しているため、活動団体と支援団体が直に何が必要なのか、何を求めているのかを直接話し合える貴重な機会となりました。なかには「企業が有する専門的な知識、人材をこどもたちの体験格差解消につなげてほしい」「会社として環境改善や食育に関する講座ならできるかも」など、互いの思いや強みを共有する姿が見られました。

全体共有では各テーマで話したことをふりかえりました。感想として企業で働く参加者からは「福祉に関する考え方を学べる機会になった。これまでも区社協を通じて地域活動をしてきたが、いろいろな話を聞いていい刺激になった。引き続き、社内で福祉の輪を広げていきたい」と話しました。

会の最後に司会を務めたNPO法人チュラキューブ代表理事の中川悠^{はるか}さんは「活動を続けているなかで、どこに重きを置いて、どのような意味合いを持たせるのかを大切にしている。地域の方々が抱える多様な



災害大国で暮らす 私たちにできること

大阪公立大学大学院生活科学研究科 講師 山東愛美

1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんで、9月1日は「防災の日」と定められている。また、この時期は台風が多いこともあり、災害への備えを意識づけるという意味もある。今号は9月号ということで、最近の防災・災害に関する制度動向を概観しておきたい。

昨年、災害対策基本法等の一部改正によつて、被災者に対する福祉的支援等の充実が法律に盛り込まれた。避難所だけでなく自宅や自家用車で避難生活を送る人にも福祉サービスを届け、心身の不調や災害関連死を防ぐことが目的である。また、今年5月からは気象庁が発表する警報・注意報の名称が変更になり、避難の目安がわかりやすく伝えられるようになった。そして7月には防災庁設置法が公布され、年内にも防災庁が発足する。防災庁は、平時からの備えや災害発生時の対応、復旧・復興ま

で一貫して取り組む組織であり、防災・災害対応の司令塔となる。

当然のことであるが、こうした法整備が進む背景には、日本は世界有数の災害大国という事実がある。地震、台風、豪雨等、毎年のように全国各地で大規模な災害が起きており、ちょうどこの記事の執筆中である7月28日には令和8年熊本地震が発生した。真夏の避難生活は、熱中症のリスクが懸念されている。令和6年能登半島地震が元日に発生したことも記憶に新しく、誰もがいつ、どこで被災するかはわからないことに改めて直面している。家具の固定、ハザードマップや避難場所の確認、食料品のローリングストック、非常用持ち出し袋の準備等、今一度自分自身の備えを見直すとともに、様々な季節・時間帯での防災を想定した防災訓練等にも積極的に取り組むべきであろう。